

法政大学人間環境学部
教授 長谷川 直哉

受賞・表彰内容について

1. 受賞内容 環境経営学会 学会賞（実践貢献賞）
2. 受賞年月 2018年5月27日（於：環境経営学会2018年度研究報告大会）
3. 受賞対象 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』
2017年3月刊，文眞堂

4. 執筆者

長谷川直哉 法政大学人間環境学部 教授（序章、第5章）
横山恵子 関西大学商学部 教授（第1章）
河井孝仁 東海大学文学部 教授（第2章）
小室達章 金城学院大学国際情報学部 教授（第3章）
高浦康有 東北大学大学院経済学研究科 准教授（第4章）

5. 受賞理由

山積するさまざまな社会課題に対して、わが国企業とNPOのパートナーシップの取り組み内容とその成果を体系的に整理し、サステナブル社会の実現に向けた、多様な主体によるパートナーシップの意義に対する理解を深めたことに社会的な意義がある。

6. 本書の概要

本書は、法政大学イノベーション・マネジメント研究センターの研究プロジェクトであるCSR研究会の研究成果をまとめたものであり、同センターの13番目の研究叢書である。CSR研究会は、2002年に創設された「パートナーシップ大賞（現・日本パートナーシップ大賞）の調査会メンバーによって構成されており、日本パートナーシップ大賞の応募事例を中心に、290事例を超える企業とNPOのパートナーシップ事例の調査・分析を行った。

本書は、企業とNPOによるパートナーシップのケーススタディから、社会課題の解決に向けた合意形成のプロセスや問題点を掘り下げ、価値共創時代の戦略的パートナーシップのあり方を問うことを目的に刊行されたものである。

SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」で示されているように、持続可能な社会経済システムの実現には、企業とNPOの協働はもとより、あらゆる主体によるパートナーシップが必要となろう。企業には、多様な主体とのパートナーシップを背景とした、社会全体の最適化を志向するビジネスモデルの再構築が求められている。本書を通じて、多様な価値観が受容される生き生きとした未来社会の姿に思いを巡らせていただきたいというのが、執筆者一同の意図するところである。

7. 本書の構成

- 序章 価値共創時代の戦略的パートナーシップ
- 第1章 地域協働を促進するソーシャル・アントレプレナーシップ
- 第2章 地域を支える協働－シティプロモーションの視点－
- 第3章 災害に対するレジリエンスと協働
- 第4章 ソーシャル・キャピタルと組織間協働
－東日本大震災の被災地において企業とNPOがつむぐ関係性
- 第5章 価値共創経営とクロスカルチャラル・パートナーシップ

以上